

## English Garden 第31話

"How many goodly creatures are there here! How beauteous mankind is! O brave new world That has such people in't!;"

William Shakespeare

「りっぱな人たちがこんなにおおぜい！人間がこうも美しいとは！ああ、素晴らしい新世界だわ、こういう人たちがいるとは！」

ウィリアム・シェイクスピア

前回に続き、シェイクスピアの"The Tempest"（「テンペスト」(大あらし)）からミランダの言葉です。

謀反を働いたプロスペローの弟のアントニオとナポリ王らは、プロスペローの命を受けた妖精のエリエルに、波の音や雷鳴を背景に過去の罪状を聞かされ、恐怖のどん底に突き落とされました。その上、ナポリの王子ファーディナンドは溺死したと告げられます。

一方、ファーディナンドは、ミランダの夫となる資格を試され、プロスペローの試練を受けていました。ファーディナンドは課せられた苛酷な労働や無理難題に雄々しく立ち向かい、晴れてミランダの夫と認められました。

アントニオとナポリ王は狂乱状態となって、家来と一緒に閉じ込められていました。彼らが深く後悔しているのを見て取ったプロスペローは、魔法を解いて許してやります。

とくに死んだはずのプロスペローの前に引き出されたアントニオとナポリ王はじめ従者たちは、不思議なことの連続にいよいよ驚きながら、前非を悔いてミラノ王国を返還することを約束します。その返礼の贈り物としてプロスペローが差し示したのは、チェスを楽しんでいるファーディナンドとミランダでした。驚喜したナポリ王は、"Now all the blessings / Of a glad father compass thee about!"（おまえの上に / 喜びに満ちた父のありとあらゆる祝福を！）と叫びます。そのとき、ナポリ王など立派な身なりの人を初めて大勢見たミランダが、その美しさに打たれて叫んだのが表記の言葉です。

難破したはずの一行の船は、エリエルの計らいで無傷のまま保管されており、船員たちもみな無事でした。プロスペローはミランダと共に彼らをナポリまで送り、婚礼を見届けてからミラノへ帰ることになりました。

プロスペローは魔法を捨てるときがきたのを知り、忠実に役目を果たしたエリエルをねぎらって解放してやります。そして、魔法の杖は、「地の底深く埋め、この書物を測量の鉛も届かぬ / 海の底深く沈めてしまうつもりだ」と宣言します。次は観客に対するプロスペローの最後のメッセージです。

Now my charms are all o'erthrown,  
And what strength I have's mine own,  
Which is most faint. Now 'tis true,  
I must be here confin'd by you,  
Or sent to Naples.  
私の魔法は消えました、  
生身の私となりました。  
私をここに残すのも、  
あるいはナポリにかえすのも、  
皆様次第でございます。

「テンペスト」はシェイクスピア1人の手による最後の作品とされていることから、魔法を捨てたというこれらのセリフは作者自身の引退を暗示しているとする研究者もありますが、作者は魔法という手段で夢と現実の混交した世界を大いに楽しんでいるようです。

